

## 札幌報告会2017 挨拶

平成29年8月25日

幌延深地層研究センター 所長 山口義文

○本日はお忙しい中、私どもの「札幌報告会」に足をお運びいただき、ありがとうございます。

○センター所長を務めております山口と申します。  
よろしく願い申し上げます。

○まず最初に、6月6日、大洗研究開発センター燃料研究棟で汚染事故を発生させ、現在に至るまで国民の皆様にも、多大なご迷惑及びご心配をおかけしていることをお詫び申し上げます。  
内部被ばくに至った原因究明と再発防止に全力を尽くしており、国民の皆様からのご意見等に真摯に対応しながら、信頼回復に努めてまいります。

○次に、7月28日に、「科学的特性マップ」が公表されましたが、地層処分技術の研究開発を行っている当センターとしても、「科学的特性マップ」の公表が国民の皆さまの地層処分に関する関心を喚起し、理解を深めていただく機会となることを期待しています。

○本日の報告会では、幌延深地層研究計画における平成28年度の調査研究の成果を報告書として取りまとめましたので、平成29年度の計画とあわせて報告させていただきます。また、報告に先立って、原子力環境整備促進・資金管理センターの朝野英一チーフ・プロジェクト・マネージャーに「幌延における原子力機構/原環センター共同研究の成果」と題した特別講演をお願いしています。

○幌延深地層研究センターについては、中長期計画に基づいて策定した、平成28年度調査研究計画が順調に進み、着実に成果をあげつつあります。これも、幌延町や北海道の地域の皆さまのご理解、ご支援の賜物と深く感謝しています。

- 幌延深地層研究センターが今後とも研究開発の中核的な拠点としての役割を果たし続けていけるように、国の方針や処分事業の進展状況などを見据えながら、柔軟性をもって研究開発に取り組んでいきたいと考えています。また、研究開発を進めながら将来の計画についても検討し、平成31年度末までに、研究終了までの工程やその後の坑道の埋戻しなどを含む全体の計画を策定する予定です。
- 研究を進めるに際して幌延町および北海道との間で取り交わした三者協定が大前提ですので、「放射性廃棄物を持ち込まない」、「研究が終わったら地下の施設は埋め戻す」といった約束をしっかりと守りながら公明正大に、かつ最大限の成果が得られるように進めていければと考えています。
- 今後とも、安全を第一に情報公開を徹底させながら、着実に研究開発を進めていきますので、引き続き、ご支援・ご協力を賜りますよう、よろしく申し上げます。

以上